

紙版 ハコブネ×ブックス vol.37

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



金曜日のヤマアラシ

作者 藪内明子
出版社 アリス館
発行 2022年6月
ISBN 978-4752010128

review



小学六年生の女子、詩(ウタ)は、お母さんを病気で亡くして、お父さんと二人暮らし。社交性が高く、友だちとも上手くやっていますが、孤独癖があり、人と親しくはしてはいたいけれど、ずっと一緒にいることは難しいという性分です。友だちの誘いも断りがちですが、そのニュアンスは理解されにくい。それなのに隠れて男子と二人で仲良くしているという噂が流れ、悪評を買います。同じクラスの転校生、桐林敏(びん)は、いつもイライラしたトゲだらけのヤマアラシみたいな少年。詩が敏に近づいたことにも、それなりの事情があります。家族や友だちであつても適切な距離をとりたい。一人の時間がないと良好な関係を保てない。物語は詩が自身自身に葛藤した挙句、そんな自分の感覚を紐解いて学級会で説明して理解を得るという驚くべき展開を迎えます。

特集

地味に問題作

問題作はたいいてい派手です。センセーショナルな題材を扱った物語は、読者を驚かせ、現代の社会問題への意識を涵養します。一方で、思わぬところで虚をつかれるような、地味に鋭い物語もあります。ここでは、児童文学にイメージされる品行方正な正しさや良識を蹴飛ばし、人間の本性を肯定する新しい感覚が、現代の社会状況を背景に描かれています。二年も経てば、これまでは違った新時代がやってくるものです。ほんの数年前にはあたりまえだったことが覆されて、眉をひそめられていたことが許容されることもあります。正直に言えなかった本音を肯定し、欺瞞に満ちたうだつていいことは無視する。そんな潔さが心地良い新しいセンスの物語を集めました。しかも地味でケレン味がない。子どもたちの心の中に閃いたささやかな変化を社会問題として大仰に扱わない、地味に心につき刺さってくる現代のセンシビリティに注目です。



ステイホーム

作者 木地雅映子
出版社 偕成社
発行 2023年6月
ISBN 978-4037274603

review



小学五年生の女子、るるこが学校に行かなくなったのはステイホームのためです。世界的な新型コロナウイルスの蔓延で、全国の学校で行われた一斉休校。まだテレワークができないうお母さんが仕事に行っている間、家具職人で自由なスピリットを持った伯母さんと二人で、るるこは家で過ごすことになりました。学校が好きではなく、今の状況をラッキーと思っていることに後ろめたさを感じていた、るるこに、伯母さんは、コロナのおかげで世界は変わると宣言します。人は心の中では何を思おうと自由なのだから、まずは突きつめて考えていくべきと勧められるのです。伯母さんと古い家のリフォームを進めながら、何が好きで、何が嫌いなのか、るるこは自分を見つめます。不登校児にはなれない少女に与えられたステイホームの時間が、彼女の生き方を変えていきます。



ソラモリさんとわたし

作者 はんだ浩恵
出版社 フレーベル館
発行 2021年12月
ISBN 978-4577050163

review



小学六年生の女子、美話(みわ)が学校帰りに落としたメモ帳を拾ったのは、ソラモリさんという若い大人の女性でした。そこには学校の課題の童話コンテストへの応募作が書いてあり、なんとか取り戻そうと、美話はソラモリさんの家に日参します。フリーランスのコピーライターのソラモリさんは、毎日、沢山のキヤッチフレーズを考えていると言いますが、思わず、ちよるいと美話が言葉が漏らしてしまうほどの気楽なライフスタイルなのです。母親を事故で亡くし、言葉にならない言葉を胸に抱えたままの美話。ソラモリさんがキヤッチコピーを作るプロセスを追うことが、美話の言葉のレッスンとなつていきます。自己肯定感に溢れたソラモリさんの突拍子もない行動に付き合いながら、少しずつ感化されていく美話は、心にだかまる思いを、言葉によって整理していきます。



涙の音、聞こえたんですが

作者 嘉成晴香
出版社 ポプラ社
発行 2023年5月
ISBN 978-4591177860

review



中学一年生の女子、美音(みおん)には、涙の音を聞くことができる能力があります。母親からこの力を受け継いだ美音は、人の心の波動を聞き、隠された気持ちを察知できるため、逆にうまく友だちづきあいができずクラスでも孤高をかこつていました。そんな美音が生徒会長の高坂健先輩に近づいたのは、校則を変えたいという相談のためです。教室で一人で弁当を食べることが辛くて、トイレで隠れてお弁当を食べている子たちがいる。その涙の音が聞こえてくるから、教室以外でも昼食を食べても良いことにしないかという提案です。心優しい健先輩は、その子たちの気持ちを想像しては泣き、美音を呆れさせます。クールにふるまいながら人との繋がりを求めていた美音。一途な健先輩の孤軍奮闘に、泣くことは弱さだと思っていた美音の心に兆していくものがあります。

特集
地味に問題作



夏のカルテット (真島めいり) PHP 研究所 2021年

人の目を気にするあまり、折角のチャンスをすべてふいにしてしまう少年。ちよつと極端じやないかと思えるものの、現代の子どもの繊細さの前には、大人が考えるあたりまえのアドバースなんぞ通用しません。物語に描き出される心の深淵に触れることは、自分の良識の限界を顧みる契機となるはずです。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.37

2023年10月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



@tomoostretch